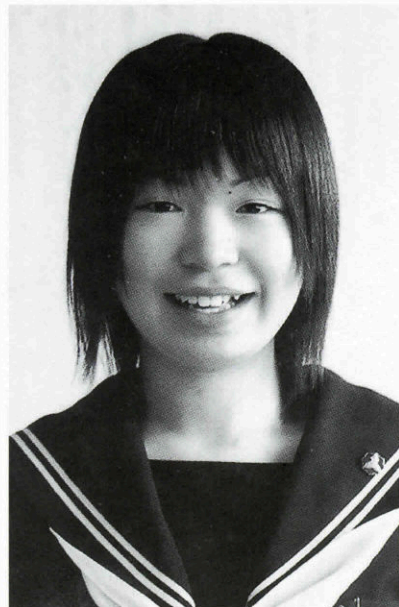


ながとじん 長門人



かけはし

— 連絡帳 —

山縣盛子 さん

やまがた せいこ / 昭和60年生
長門高等学校 3年 / 小原区

私の高校入学と同時に、多くの中国からの留学生も一緒に入学しました。長門高校では、外国からの教師を招いて中国語等の授業を行うなど、国際社会に役立つ人材を養成しています。

私は外国語は英語しか学習したことがなく多少の不安はありましたが、流暢な日本語を話せる先生ですので、分らないことは気軽に質問できとても楽しい授業の一つです。中国からの留学生と同じ校舎で勉強しますが、学習に取り組む真剣な姿勢には私達も学ばなければいけないと痛感しました。

アジアで一番大きい国土と人口を持ち急成長を続けている中国に、日本の企業も先を争って

進出しています。そういう時代にこそ、両国の言語や文化を理解し、「かけはし」となる人間の一人になりたいと思いつつながら中国語の習得に励んでいる毎日です。



北九州市の小倉に移り住んでから今年で丸10年。魚礁の設計・販売という仕事柄、長崎の対馬から鹿児島、佐多岬までの各漁協や県庁など九州一円の営業を受け持つており、月に10日間くらいは出張で出かけています。

そういったことからこれまで様々な港を見てきた訳ですが、やはり地元である通の港には何か特別なものを感じます。毎朝漁から帰ってくる祖父の姿、水揚げされた魚のセリをする父の港の隅々まで響き渡るような声、また、通と仙崎の間を就航していた「かよい丸」のその頃はとてつもなく大きく見えた真つ白い船体、など幼い頃の港の情景が今でも心に焼きついています。

自分が育った故郷の思い出は自

港の風景

— ふるさとながと・こんにちは —



君川佳司 さん

きみがわ けいじ / 昭和46年生
北九州市小倉在住 / 通6区出身
株クロシオ 九州営業所 所長代理

分にとつて大変貴重なものであり、最近ほとんど帰省する機会が無くなってから、むしろ故郷を心地よく懐かしむことが増えたような気がします。

今では2歳の子を持つ親となり、これから先家族で帰省した際には、他の港には無い特別な自分の思いを少しずつでも子供に伝えることが出来ればと思います。



通ソフトボールスポーツ少年団で
(前から2列目、左から2番目が君川さん)